


視 察 報 告 書

<p>調査・研究テーマ</p>	<p>マツダスタジアムの建設・運営と現地見学</p>
<p>目的</p>	<p>10年目を迎えた当球場だが、その建設や運営において様々な工夫が凝らされている。また球場跡地における協議についても特徴がある。現地を見学したうえで、それらの話を聞き、スポーツやイベント施設の運営や今後の建設における留意点、意思形成過程の枠組みなどを市政に反映することを目的とする。</p>
<p>内容</p>	<p>日 時：2018年5月17日（木）10：30～11：30 場 所：マツダスタジアム、広島市議会委員会室 担 当：株式会社広島東洋カープ営業企画部ファンサービス課 主任 森下雄介 氏 広島市都市整備局広島駅周辺地区整備担当 柳下 良悟 氏 広島県都市整備局都心空間づくり担当 専門官 永瀬 道孝 氏 主任技師 黒瀬 享宏 氏</p> <p>参加者：高柳 俊哉、土井 裕之、熊谷 裕人、池田 麻里 浜口 健司、小川 寿士、政務調査員 報告者：土井 裕之</p> 

概 要

【見学において】

・コンコースで球場を一周できるつくりである。一周600メートル。

・道路から車も通ることのできるスロープを通り、コンコースにたどり着ける。つまり段差のないかたちで球場内までアクセスできるのであり、これは車いすなどに対してユニバーサルな環境を提供している。車いす席は100を超え、最大300席まで準備できる。おもてなし用の担当者も配置している。

・席の種類は約30種類。一般席は、大リーグ並みに大きい仕様で、緩やかな角度で配置し、グラウンドからははなれるが、かえって近く見えるという心理的効果を取り入れた。バーベキューのできる席やパーティールーム席など団体向けに用意された席もある。最大で150人が利用できる。法人関係などが購入し、常にチケットが完売となるほどの人気だという。砂被り席という視線がグラウンドのラインに来る地下席や、モニターでしか試合が観戦できない死角に設置された席、寝そべりアという芝生の上に寝そべりながら観戦できる外野席など、実に様々な席を用意している。できるだけ観客を多く入れることよりも、足を運んだ入場客が楽しんで満足して帰ることを目的としている。

・球場は常に変化している。もともとは壁となっていた場所を取り払って、隣のビルとコンコースでつなげ、球団グッズを販売する場所を設けたり、多目的広場を増設したり、建設後にその時々に合わせて形を変えている。スロープからコンコースにかけての緩やかな坂道は、チケットをもった入場客が入る場所だが、ここでイベントを行うこともある。5月末に予定される球場10周年イベントは、ポルトガルの傘を飾る企画が進められていた。

【新球場について】

・施行10年目を迎えた新市民球場。

・移転の経緯は、10数年前のプロ野球リーグ再編議論にさかのぼる。この時、カープ球団が外に流出してしまうのではないかと危機感を持ったのは広島市の市民や経済界だった。経済界を中心に新球場構想が作られる。国鉄清算事業団から貨物ヤ-

--	--

概 要

ドを広島市土地開発公社が取得し、「新球場建設促進会議」が発足したのが平成10年であり、それから平成17年に正式にこのヤードに新球場を建設することを決定。平成20年にはカープ球団とフランチャイズ契約を締結。同年、当球団を10年間の指定管理者に指定。3年ほど前からはチケットの入手が全くできなくなるような事態も生じている。カープ球団が優勝することが、チケット入手を困難にしている現状がある。車いす席も全くの完売という。こうした事態は市職員も想定外だという。

- ・新球場の周辺開発については、28年度で大きなものは終了している。分譲住宅とカープ球団の屋内練習場が設置された。

- ・運営の方法だが、カープ球団が、将来にわたり広島を本拠地とするよう球団の安定的な運営が可能となる仕組みとするために、広島市とカープ球団でフランチャイズ契約を締結した。飲食物販施設は当球団の排他独占にて営業、広告収入のうち20%は目的外使用料として当球団が広島市に納入する一方、グラウンドや専用施設の整備は当球団の役割となる。当球団が施設の管理者であり利用者でもある。

- ・球場のハードの設計や運営については、アメリカ大リーグのサンフランシスコ・ジャイアンツの球場やマイナーのいくつかの球団を、カープや広島市の職員が実際に足を運び調査した結果を持ち帰り反映することとなった。国内では稀有な建築物や、高度なサービスはこうした調査の結果の産物であり、昔の広島市民球場ではなかったことだった。

・全体の財源構成は、土地取得費54億7500万円、建設費90億円、年間球場使用料6億5700万円。大規模修繕の費用は30年間で65億円を見込んでいる。



概 要

【旧球場について】

- ・ 広島駅を中心とした「楕円形の都心づくり」（広島駅＋西部に位置する紙屋町・八丁堀地区）を進めてきた。
- ・ 紙屋町・八丁堀地区は更新の時期に来ていた。旧市民球場はこの紙屋町の西側に位置し、中央公園敷地内にあった。この南側に原爆ドームや平和公園がある。
- ・ 旧広島市民球場の敷地内建て替えは、新球場の想定が当球場よりも巨大化するために周辺の施設などとの兼ね合いで断念された。
- ・ 移転の経緯として、平成17年9月に市民球場の移転決定。平成27年1月空間づくりをすすめた。旧広島市民球場跡地委員会を設置。この委員構成に「若者」の枠があり大学の生徒など5人が入っている。これは若者の感性で賑わい施設について考え発言してほしいという狙いからだったが、実際に彼ら彼女らは実現可能性を超えて大胆な提案や発言をしていたという。
- ・ 平成25年に当委員会の最終報告、旧市民球場跡地の活用方策の策定・公表。平成27年1月に「空間づくりのイメージ」を公表。こうした流れで順調に計画が策定されてきたが、現在はJリーグのサンフレッチェ広島スタジアムを移転させようとする案の候補地の一つに、この場所が入っていることから、その検討状況を見極めている状況とのこと。



<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何よりも圧巻だったのは、新球場のコンコース一周600メートル。ここにはバリアフリーも、入場客の自由な動線もあり、さらにはコンコース自体が立見席に早変わりするし、飲食や物品の購入など賑わいもここで生まれるし、新たなスペースの増設もできるという優れものである。担当者の話ではおそらくこうした、場内を一周できるような形式の野球場は、日本でもここしかないのではないか、ということだった。私もニューヨークヤンキースのスタジアムや、シドニーのAFL専用スタジアムでは同様の施設を見たことがあるが、こうした試合を見ながら場内一周できるコンコースは国内では初めてである。 ・海外の大リーグという最高峰のハード面ソフト面を現地まで学びに行き、それを反映するという方法こそ、当球場の活性化につながっているのであり、さいたま市行政でも学ぶべき要素であろう。行政職員の調査経費を確保し、確実にその内実について収穫を得て、事業につなげていくことを後ほど提案したい。 ・今後のスポーツやイベント施設において、国内に限らず、国内外にヒントを得て、現地調査も含めてハード面からソフトの運営面まで、あらゆる可能性を探り、計画策定することの重要性をマツダスタジアムは教えてくれた。 ・また、旧市民球場移転後の跡地利用の委員会において、「若者枠」を設けたのは興味深い。さいたま市内には8つの大学が存在するが、そこには専門的なことを学ぶ学生たちがいる。もちろんその教授クラスから知見を得ることも当然あるが、学生たちに意見をもらおうということが、物事の限界を低く設定しがちな大人と比べ、斬新な意見がその意思形成過程に含まれていくのではないかと考えられる。学生、子どもなどの枠があってもいいだろう。これはさいたま市政に提案したい。
<p>会派基本政策</p>	<p>26. さいたま市のブランディング（都市イメージ）の強化に向けた地域資源の活用</p>